

取組の重点



第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン（3年目）

子どもたちの基本的な生活習慣の定着を図り、3つの視点において、次の内容を重点として「学ぶ力」向上の取組を進めます。今年度は、小学校に続き、中学校で学習指導要領が全面実施になることを踏まえ、**視点1**の取組を一層充実していきます。

視点1 学びを実感できる 授業づくり

- 子ども一人ひとりの学びの状況に応じた**基礎的・基本的な知識・技能の指導の充実**
 - ◆「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「**読み解く力**」の視点を踏まえた**授業づくり**の推進・充実
- ★「個別最適な学び」や「協働的な学び」のツールとしてのICTの効果的な活用

POINT

- 資質・能力の育成に向けた「教科等の指導力点」を意識する。
- 学習評価の充実を図り、子ども一人ひとりの学びの状況を的確に把握し、「わかった」「できた」につながるきめ細かな指導の改善を進める。

視点2 学ぶ意欲を引き出す 学習集団づくり

生徒指導の3機能を生かした
学習集団の基盤づくりと授業づくりの充実

POINT

- ＜生徒指導の3機能＞
- 自己存在感を高める。
 - 自己決定の場をつくる。
 - 共感的人間関係を育成する。

視点3 子どものために一丸となって取り組む 学校づくり

OJTを活用した学校全体で組織的・継続的に実践する取組の充実

POINT

- 課題を焦点化して明確にし、「我が校の学ぶ力向上策」等を活用しながら、教職員全体の共通理解を図る。
- 取組について、推進する組織を確立し、検証・改善する手立てを具体化し、実践について定期的に確認する。
- 計画的・継続的に研修を実施し、実務を振り返りながら教職員一人ひとりの自発的な成長を支援する。

視点1 教科等の指導力点

各教科等の資質・能力の育成に向けた

- ：基礎的・基本的な知識・技能の指導の充実
- ◆：「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりの充実
- ★：ICTの効果的な活用

幼稚園等

- 幼児が主体的に環境と関わって十分に活動し、充実感や満足感を味わえるよう、教材を工夫し、人的・物的・空間的環境構成の充実を図っているか。
- ◆発達に合った言葉のやりとりや、絵本の読み聞かせ等、日々の保育の中で話を聞くことや、相手がわかるように自分の言葉で話すこと等の言語活動が充実しているか。

国語(小)

- 意味を理解している語句の数を増やしたり、話や文章の中で使いこなせる語句を増やしたりする指導をしているか。
- ◆育成を目指す資質・能力を明確にし、それを身に付けるのに合った言語活動や教材、単元計画を設定しているか。
- ★スピーチやプレゼンテーション等、考えたことを表現・共有する場面でICTを効果的に活用しているか。

書写(小)

- 姿勢、筆記具の持ち方、筆順等を意識し、文字を正しく整えて丁寧に書く指導をしているか。
- ◆生活や学習活動等での文字を書く様々な場面において、目的に応じて使用する筆記具を選び、特徴を生かして書く活動が取り入れられるよう工夫しているか。

社会(小)

- 必要な情報を読み取り、社会的事象の特色や意味等を理解し、文章等にまとめる活動を設定しているか。
- ◆社会的な見方・考え方を働かせながら、課題について考えたことを根拠をもとに説明したり、立場を明確にして議論したりできるよう工夫しているか。
- ★情報を収集する場面でICTを効果的に活用しているか。

算数(小)

- 本時で学んだ知識・技能や問題の解決に至った過程を適用問題等でより確かなものになるよう工夫しているか。
- ◆数学的な見方・考え方を働かせ、事象を数理的に捉えて算数の問題を見だし、解決に向かう学習活動を設定しているか。
- ★数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするため、ICTを活用しているか。

理科(小)

- 観察、実験を通して基本的な技能を身に付けたり、得られた結果を適切に記録したりする活動を設定しているか。
- ◆「問題解決の力」を育成するための言語活動が充実しているか。
- ★観察、実験などの直接体験を基本としつつ、結果を明確にする場面などにおいて、ICTを効果的に活用しているか。

音楽(小)

- 児童が音楽のよさや楽しさを感じる音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を焦点化した指導をしているか。
- ◆児童が音楽に関する用語等を用いて、喚起されたイメージや感情、思いや意図等を伝え合う活動を取り入れているか。
- ★様々な感覚を働かせる場面や主体的に学習に取り組む場面でICTを効果的に活用しているか。

図画工作(小)

- 自分の感覚や行為を通して形や色等を理解するとともに、自分の思いを生かした創造的な活動を楽しむ過程を通して技能が育成されるよう工夫しているか。
- ◆★表現や鑑賞の活動において、〔共通事項〕に示す事項を視点とした言語活動を設定し、用具の一つとして必要性を十分に検討してICT機器を活用しているか。

家庭(小)

- 実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付けられるよう指導しているか。
- ◆日常生活の中から問題を見だし、よりよくするための工夫を考え、実践を振り返る過程の中で、考えたことを表現するよう指導しているか。
- ★実体験とICTの活用を効果的に組み合わせているか。

生活(小)

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、幼児教育での学びや育ちを生かした指導をしているか。
- ◆繰り返し対象に関わる中で、「比べる」「試す」等の児童の姿を想定し、気付きを促す多様な活動を取り入れているか。
- ★低学年児童の発達の段階や特性を十分配慮して、ICTを振り返りや表現に活用し、活動への意欲を高めているか。

国語(中)

- 話や文章の中で使いこなせる語句を増やしたり、語感を磨き語彙を豊かにしたりする指導をしているか。
- ◆「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域の指導事項を指導する際に、言語活動を適切に設定しているか。
- ★電子メールを書く活動を設定し、読み手の立場に立って、表現の効果を確かめて、文章を整える指導をしているか。

書写(中)

- 漢字の楷書およびそれに調和した仮名について、正しく整えて速く書くことができるよう指導をしているか。
- ◆身の回りの多様な表現を通して、目的や必要に応じ楷書か行書を選び、効果的に文字を書く活動が取り入れられるよう工夫しているか。

社会(中)

- 社会的事象の特色および相互の関連を理解し、資料を効果的に活用し、必要な情報をまとめる活動を設定しているか。
- ◆社会的な見方・考え方を働かせながら、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、議論したりできるよう工夫しているか。
- ★情報を読み取る場面でICTを効果的に活用しているか。

数学(中)

- 本時で学んだ知識・技能や問題の解決に至った過程を適用問題等でより確かなものになるよう工夫しているか。
- ◆数学的な見方・考え方を働かせ、様々な事象を数学的に表現・焦点化した問題にし、解決に向かう学習活動になるよう工夫しているか。
- ★ICTの活用で学習内容や問題の理解を促進させているか。

理科(中)

- 観察、実験を通して技能の定着を図るとともに、科学的な用語や概念を活用した表現する活動を設定しているか。
- ◆理科の見方・考え方を働かせながら、科学的に探究する学習活動に取り組めるよう工夫しているか。
- ★観察、実験などの直接体験を基本としつつ、結果の分析や考察する場面などにおいて、ICT活用の工夫をしているか。

音楽(中)

- 生徒が音楽のよさや楽しさを感じたり価値等を考えたりする音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を焦点化した指導をしているか。
- ◆生徒が音楽に関する用語等を用いて、喚起されたイメージや感情、思いや意図等を伝え合う活動を取り入れているか。
- ★創作等、試行錯誤する場面でICTを効果的に活用しているか。

美術(中)

- 〔共通事項〕の各指導事項を、表現や鑑賞の学習の中に適切に位置付けて実感的に理解できるようにしているか。
- ◆表現や鑑賞の活動において、自己との対話を深めることや、〔共通事項〕に示す事項を視点に言語活動を設定しているか。
- ★表現の可能性を広げるために、映像メディアやICT機器の積極的な活用を図っているか。

★1人1台端末による個別最適化された
学びに向けての
ICT活用ガイドブック



★ICTの効果的な活用については、「ICT活用ガイドブック」を参照してください。

技術(中)

- 問題解決の過程に、科学的な知識を踏まえた設計・計画、身体的な技能等を用いた製作・制作・育成といった活動を設定しているか。
- ◆課題を解決するために言葉や図表、概念等を用いて考えたり、説明したりする等の学習活動が充実しているか。
- ★意見交流や作業の記録に、ICTを効果的に活用しているか。

家庭(中)

- 実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識・技能を身に付けられるよう指導しているか。
- ◆家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして、生活を工夫し創造するために考え、実践を振り返る過程の中で、考察したことを表現するよう指導しているか。
- ★実体験とICTの活用を効果的に組み合わせているか。

体育(小)

- どの児童にも運動する楽しさや喜びを味わわせるために単元でおさえるべき運動の行い方を明確に示し、技能を習得できるよう学習時間・場を設定しているか。
- ◆自己の課題解決に向けて話したり考えたりする場面を単元内にバランスよく設定したり、授業を展開したりしているか。
- ★課題や目標とする動きが可視化できるICTの活用があるか。

保健体育(中)

- どの生徒も、運動する楽しさや喜びを味わえるよう工夫しているか。
- 単元の特性に応じて、基礎となる技能を習得できるよう指導しているか。
- ◆★話合いや効果的なICTの活用により、自他の課題の発見や合理的な解決のための場面を設定しているか。

外国語活動(小)

- 言語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、音声や基本的な表現に慣れ親しむ指導をしているか。
- ◆★コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報や自分の考え等を伝え合うことを体験できる言語活動を設定し、目的に応じてICTも活用しながら授業を展開することができているか。

英語(中)

- 言語活動を通して、音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の知識・技能の定着と活用を図る指導をしているか。
- ◆★Input-Intake-Outputの授業展開において、目的に応じてICTも活用しながら、「4技能を総合的に育成する言語活動」で知識や情報をIntakeすることを通してOutputする力を高める授業づくりができているか。

英語(小)

- 言語活動を通して、音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働き等の知識・技能の定着と活用を図る指導をしているか。
- ◆★コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、既得の知識や経験と新しい情報を整理し、自分の考え等を伝え合う言語活動を設定し、目的に応じてICTも活用しながら授業を展開することができているか。

道徳(小中)

- 指導観(価値観・児童生徒観・教材観)および「本時で児童生徒が考えを深めること」を明確にもっているか。
- ◆切り返し発問、意図的指名、言語活動・板書の工夫等によって、児童生徒の考えを深めようとしているか。
- ★目標に示されている学習活動を、より効果的に行うための手段として、ICTを活用しているか。

総合(小中)

- 全ての学習の基盤となる資質・能力の育成を重視し、他の教科等との相互の関連を図りながら指導しているか。
- ◆比較する、分類するなどの「考えるための技法」を活用した多様な他者との協働による課題解決の場を設定しているか。
- ★ICTを効果的に活用しながら情報を収集・整理・発信することによって、探究の質的向上が図れているか。

特活(小中)

- ★目的に応じてICTを活用し、話合いを進めたり、合意形成や意思決定をしたりする方法等について理解し、実践を通して体得できるよう話合い活動等を設定しているか。
- ◆学級や児童会・生徒会活動における話合いでは、提案理由や活動テーマ設定の理由(なぜ話し合うのか)を踏まえ、合意形成を図ることができるよう、適切に助言しているか。

「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりのポイント

自分なりに解決し、知識を再構築する【③再構築】

- ・学んだことを子ども自身の言葉で言語化するなど、「まとめ」や「振り返り」の充実を図りましょう。
- (視点を明確化して、ワークシートへの記入を積み重ねたり、価値付けしたりすること等)

情報を比較し、関連付けて整理する【②分析・整理】

- ・話し合う意義や必要性を大切にされた指導をしましょう。
- ・子どもものの考えを、どの順番で、どのように関連付けながら取り上げるとよいか、子どもの姿を見取りながら授業をコーディネートしましょう。

必要な情報を確かに取り出す【①発見・蓄積】

- ・目的意識を大切にし、目的に応じて必要な情報を取り出せるように発問や教材等を工夫しましょう。
- ・子ども一人ひとりの学びの状況を見取り、グラフや表などの読み取り方や文章の読み方等を丁寧に指導しましょう。

【目的意識】

- ・再構築した子どもの姿を具体的に想定し、そこから「終末→展開→導入」へとさかのぼった授業・単元を構想しましょう。
- ・学習のゴールを子どもと共有し、解決への見通しがもてるようにしましょう。



しが「読み解く力」
研修動画 (理論編・実践編)



「読み解く力」プロジェクト研究
研究内容・実践事例



視点2 生徒指導の3機能を生かした学習集団の基盤づくりと授業づくりの充実

子どもたちのよさを積極的に評価する教員の姿勢が、子どもの自己存在感や自己有用感を高め、失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦しようとする意欲の醸成へとつながります。

自己存在感を高める

- ・教材や発問の工夫により、全ての子どもたちが考えたことを発言できる機会を設定する。
- ・机間指導で励ましたり、がんばりを認めたり、よさを褒めたりする。
- ・類似した発表内容でも、共感的に受け止め評価する。 ・誤答でも、発表したことを評価する。

自己決定の場をつくる

- ・調べ方等を自分で考える時間を設定する。 ・子ども一人ひとりに学習目標を立てる場を設定する。
- ・じっくりと課題に向き合い、自分の考えを形成できるように支援する。
- ・自分の考えをまとめて、発表する場を設定する。
- ・子どもが主権者として積極的に社会参画する力の素地を養う。

共感的人間関係を育成する

- ・発表者を見て、意見を聴くように促す。 ・多様な意見を認め合う雰囲気づくりをする。
- ・自分とは違う意見等について、相手の立場に立って理解するよう促す。
- ・子どものささやきやつぶやきに着目しながら、子どもたちが互いの立場や考えを尊重し、違いを認め合えるようにする。

視点3 OJTを活用し、組織的・継続的に実践する取組の充実

管理職のリーダーシップのもと、全ての教職員が、課題やビジョンを共有し、PDCAサイクルにより取組を着実に推進することが大切です。

【学校全体で組織的に】

- ・各校における取組の重点を明らかにして、継続的に取り組む。
- ・推進組織を明確にし、校内の各分掌と連携を図りながら、組織的で実効性のある取組を推進する。
- ・OJT推進リーダーやグループリーダーを中心とした体制を整えたり、メンター方式を取り入れた研修を実施したりしながら、教員一人ひとりの指導力の向上を図る。



【中学校・義務教育学校の校区を単位として】

- ・幼稚園・保育所・認定こども園と、小中学校等の教員との合同研修会を実施し、幼小・小中の連携の取組を推進しましょう。
- ・小中学校教員が互いに授業を参観等し、目指す子ども像を具体的な姿で共有し、「学ぶ力」の向上を図りましょう。

【学校園等と家庭・地域が一体となって】

- ・学校園等の「学ぶ力」向上の取組内容等を、家庭・地域に積極的に発信しましょう。
- ・子どもたちが、「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣を身に付けたり、家庭等で主体的に学習する習慣を身に付けたりできるよう、家庭・地域と連携した取組を行いましょう。

平成28年度～令和2年度
「学ぶ力」向上につながる
実践事例集



幼小接続に向けた指導資料
学びをつなぐ
幼小接続ハンドブック

